

東北地方太平洋沖地震 緊急被害状況報告（宮城大学） 気仙沼および周辺小漁港集落

- * 本報告書は、気仙沼市の中心部及び、住宅地、産業拠点（漁業）についてまとめた。
 - * 掲載した写真は、主に2011年3月27日での状況。
 - * 気仙沼では、大型船舶の被害が特に目立った。
- * 住宅地は、北東部（鹿折唐桑駅周辺）と南西部（南気仙沼駅周辺）に被害がみられた。
- * 市街地中心部には昭和期の近代建築が多くみられるが、ほとんどが被害を受けている。
 - * 志津川に至る小漁港集落に関しては、壊滅的状況。
 - * 沿岸の道路と鉄道が寸断されている。道路は応急復旧されている。

カ テ ゴ リ

- ① 被害状況の概況
- ② 市役所・魚町エリア
- ③ 魚市場・南気仙沼駅エリア
- ④ 鹿折唐桑駅エリア
- ⑤ 大谷海岸エリア
- ⑥ 陸前小泉駅・歌津エリア

・ 調 査 者 ・

宮 城 大 学 事 業 構 想 学 部

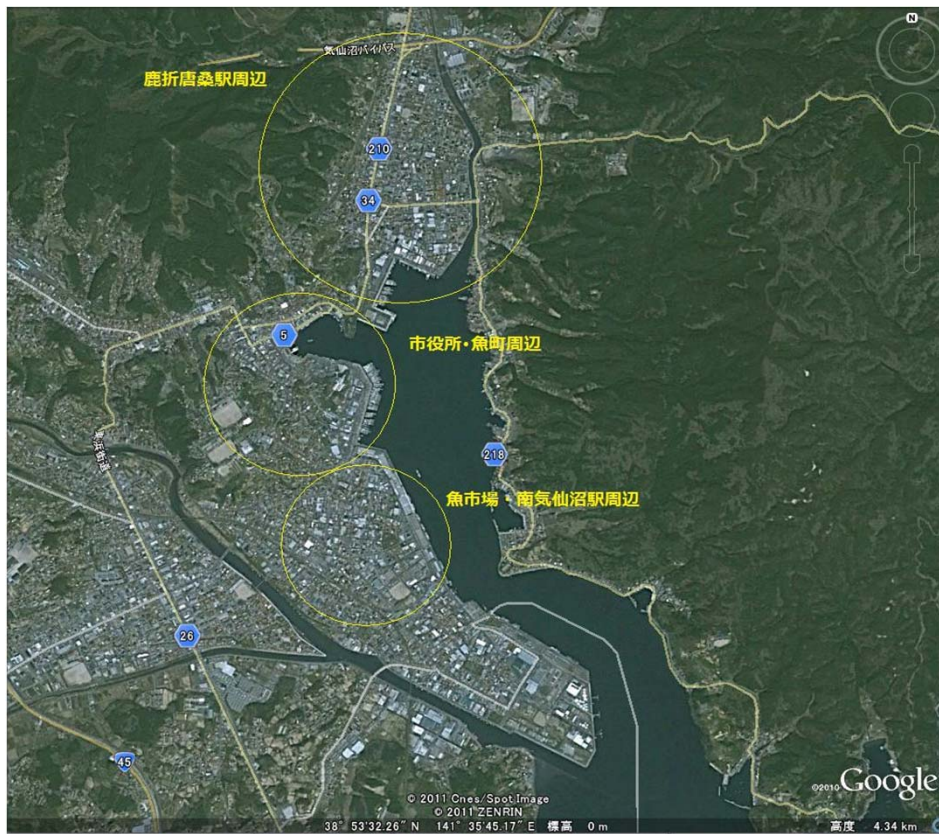
竹 内 泰

後 藤 康 久

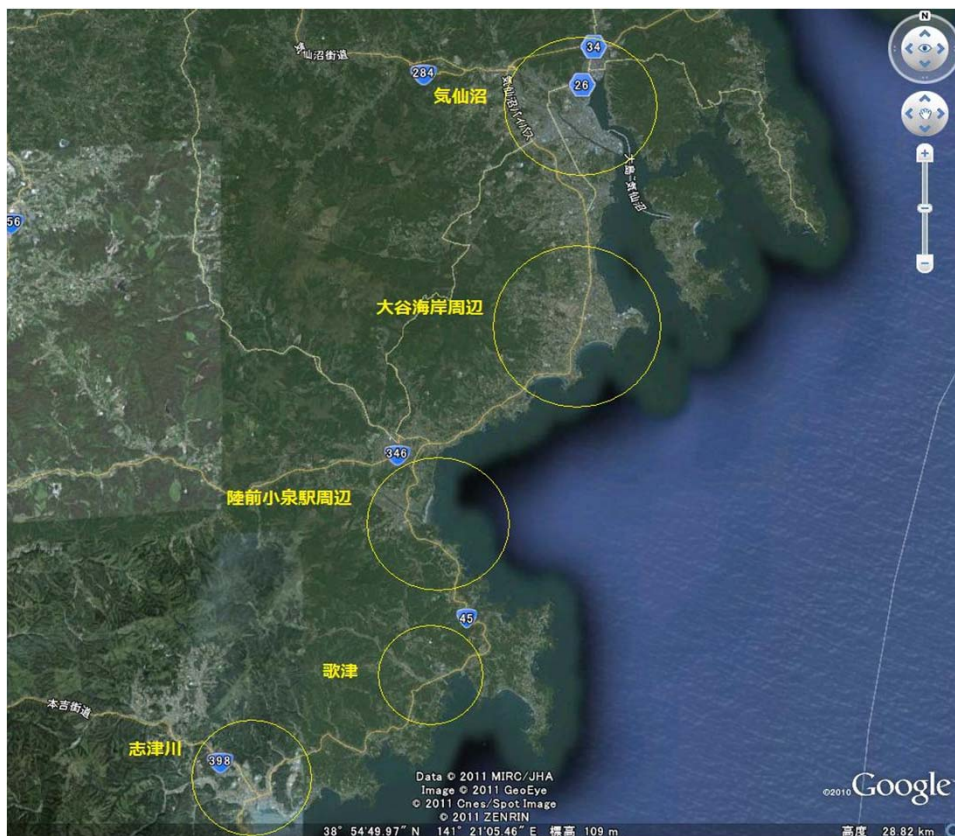
工 藤 茂 樹

ほか

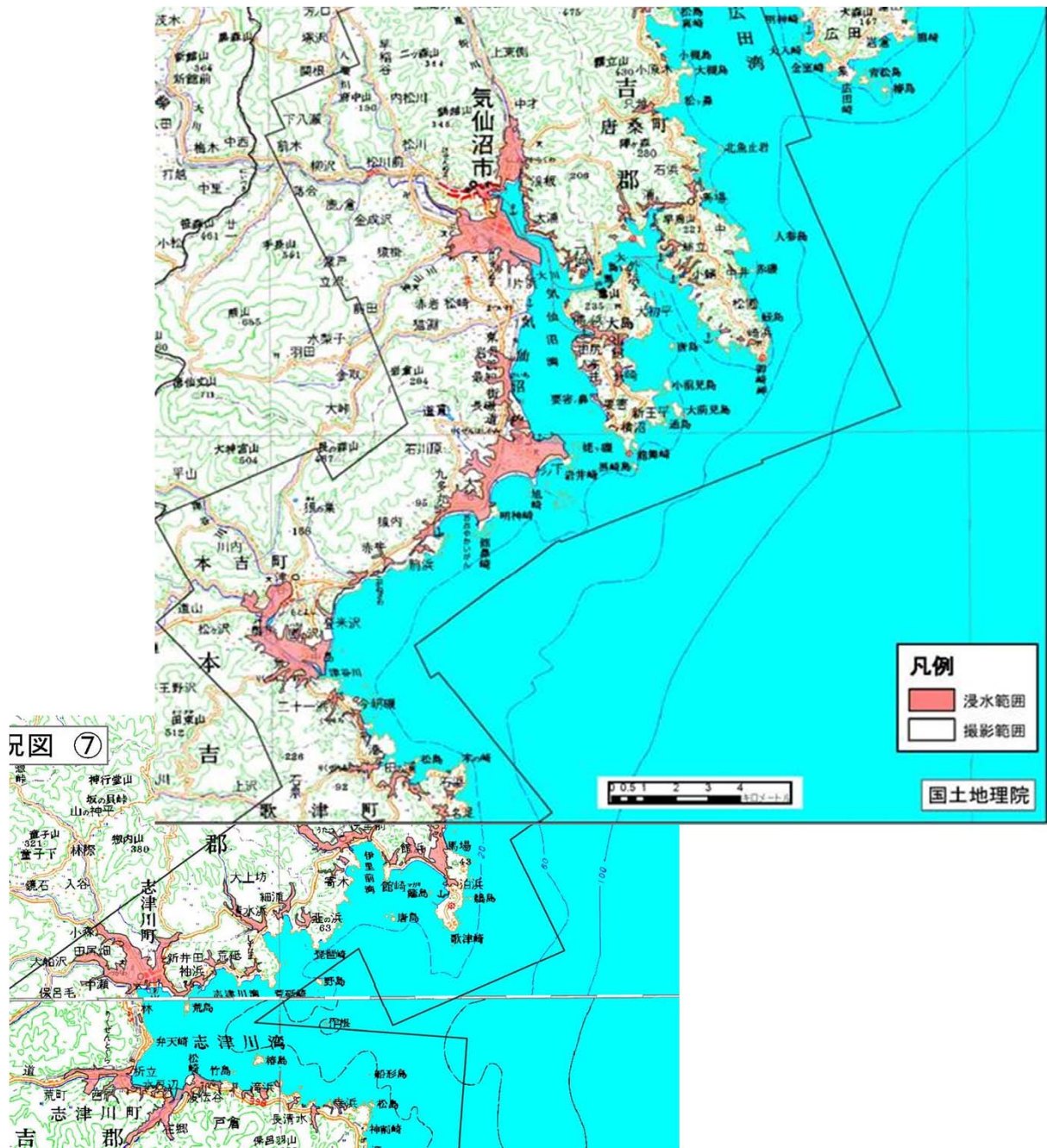
東北地方太平洋沖地震緊急被害状況報告・気仙沼および周辺小漁港集落



調査範囲概略図(市内)



調査範囲概略図(周辺部)



気仙沼付近津波浸水範囲概要図（国土地理院HPより）

東北地方太平洋沖地震緊急被害状況報告・気仙沼および周辺小漁港集落

① 被害状況の概要

気仙沼へは3月27日に入った。東北道は24日から一般に開放されたため、東北道一関経由で気仙沼に向かった。また、気仙沼から志津川に至る海岸沿いの国道45号線を南下し、途中の沿岸漁業小集落を経由し、それらの被災状況を確認した。

気仙沼は地形の関係から、津波の被災を受けたエリアが湾周辺に集中している。逆に、被災のない中心部から数キロ離れたエリアではライフラインは生きており、商店や飲食店が経営していた。商品も比較的豊富にあり、被災者たちも買い出しに来ている様子。

気仙沼は、太平洋側の漁港の拠点として、海産物や船問屋が集積し発展してきたが、1969年には、特定第三種漁港に指定され、宮城県における漁港としては国レベルでの重要拠点とされた。同じく宮城県の特定第三種漁港の石巻と比較すると、地形の関係もあり、魚市場に海産物加工所が集中するのではなく、気仙沼湾周辺に分散配置している。ただし、それぞれのエリアで加工所も被災し、機能を停止している。特に集中している川口町エリアでの被害は大きい。

船の風待ちの港でもあるため、船の被害も大きい。石巻では小規模船舶の被害が目立ったが、気仙沼では大型船舶の被害が顕著である。

気仙沼は、大正4年と昭和4年に大火に見舞われ、一気に復興してきた歴史を持っており、魚町を中心とした気仙沼湾周辺には昭和初期の歴史的建造物が多くみられたが、今回の津波は、それらにも大きな被害を与えている。

住宅地の被害も、鹿折地区では壊滅的な状況であり、残る建物は高台にいくらかが見受けられるのみである。タンカーの燃料漏れによる火災もあり、地区の半分が消失している。南気仙沼駅周辺では北側の弁天町。仲町、駅南側の大川沿いの内の脇地区は壊滅的な状況である。高台である南が丘は津波被害がない。

気仙沼から志津川に向けて、いくつかの漁港が点在している。海岸沿いの45号線は、橋や道路が断絶し、自衛隊による臨時復旧がされ、概ね通行可能な状況にある。（小泉大橋付近はいまだ不通。）気仙沼線では、線路盤から押し流されたり、高架も脱落する様子が見られた。集落は、高台にある集落ですら、津波の被害があるものもあり、高台でない集落では壊滅したものもある。

復興に際しては、「記憶」を重視する必要がある。これまで、歴史的に災害に見舞われてきた沿岸部では、それぞれに人々の生活に刻まれてきた「記憶」がある。それら「記憶の核」を再確認し、学ぶ必要がある。核を持って町は再興される必要があるのではないか。国レベルでの文化遺産復興プロジェクトを期待したい。

海産物→組合→加工業者→中央市場→仲買→鮮魚店→消費者という既存の流通システムがあるが、漁業産業復興のためには、これらのシステムを一時的にでも見直し、海産物→加工業者→市場→消費者など、のシステムの簡素化が必要と考えられる。

産業構造と都市構造の相関関係を再検討する必要もある。産業構造において形成されてきた組合組織などの問い直しも復興に向けて必要。産業復興に向けた今できることの洗い出しと必要な支援、その復興に障壁となる事項・法などの明確化と改正・特別措置などの対応が急務。

＊ ＊ 気仙沼の震災前の様子。

「集落町並みwalker HP」より引用させていただきました。

http://www.shurakumachinami.natsu.gs/03datebase-page/miyagi_data/kesennuma/kesennuma_file.htm



東北地方太平洋沖地震緊急被害状況報告・気仙沼および周辺小漁港集落

② 市役所・魚町エリア

市役所周辺は、高台になっており、甚大な被害は見られないが、まだ電気が開通していない様子。駐車場では屋台などがみられた。

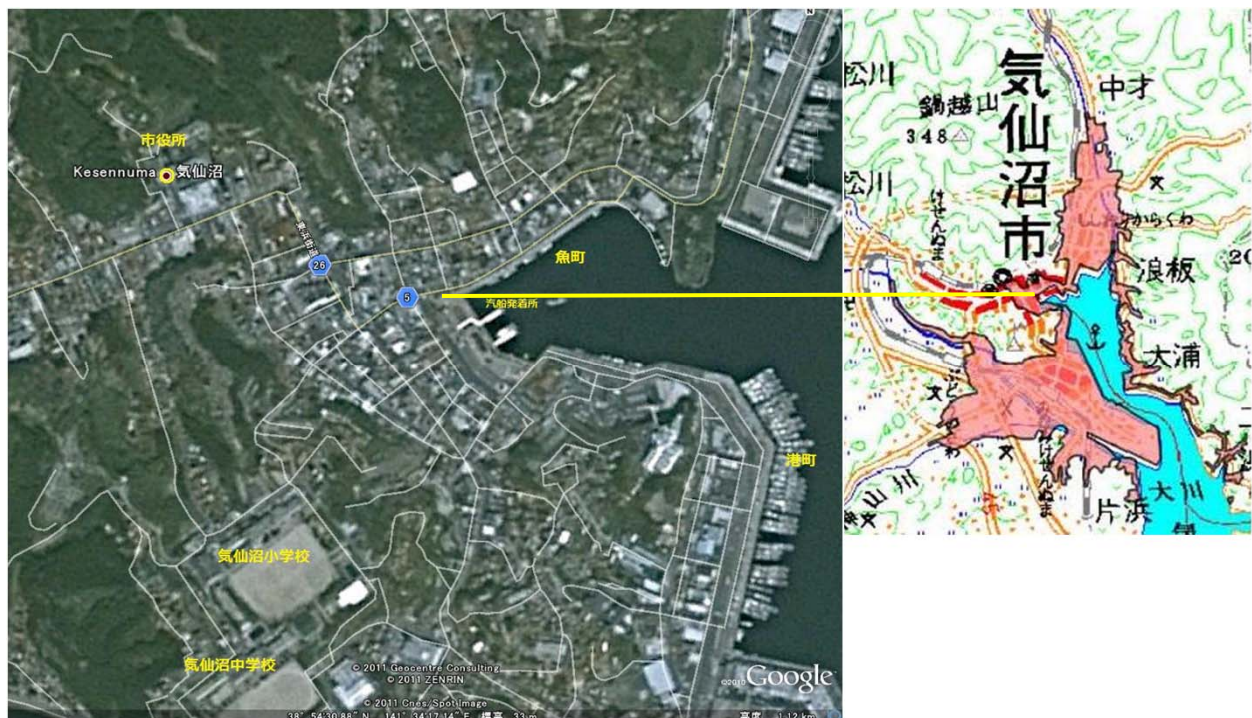
湾周辺の魚町エリアは、大正4年と昭和4年の大火によって一気に復興した昭和初期の建築物が数多くみられ、当時の繁栄の様子を示している。これらの建築物も多く被害を受けた。これら町の記憶を伝える建物をシンボルとして再生していくことが、町の復興には非常に重要だと考える。

大島への連絡船は開通している。物資を運ぶ船舶と人を運ぶ船舶がある。通常の波止場は津波によって、使用不可能な状況になっているため、岩壁に臨時発着所ができ、船を待つ多くの乗客が港に集まっていた。

生活機能が集まる南町エリアでは、木造低層の店舗併用住宅において被害がみられる。鉄骨造やRC造の建築物もあるが、津波によって流された瓦礫によって外装等にさまざまな被害がみられる。また、地下駐車場を持つ建物は、浸水の被害が継続している。生活物資や小型船舶、車などが流されている様子は、石巻ほどではない。

気仙沼では多くのエリアで地盤沈下がみられたといわれている。津波による水が引かない地域があり、瓦礫の撤去作業などに支障をきたしている。臨時の路盤を形成する工事があちこちで行われている。

生活活動としては、魚町の八百屋さんが当日も営業していた。また、パキスタンから来たイスラーム系団体のチームとも出会うことができた。彼らは小学校の避難所でカレーを調理し供給しているとのことだった。避難所各地を回っているとのこと。





町の近代建築。



大きく被害を受けているものもある。



被害が大きくないものもある。津波のむきによるものか。



近代建築の多くは木造である。



男山本店店舗。有形文化財。



通りが流された家で閉鎖されている。



流された2階建て蔵風建物。



海辺の土蔵。



山金米店。



海沿いの街道の様子。



街道宿。



その内部。



歓楽街。被害を受けたカーテンウォール。



歓楽街。被害を受けたカーテンウォール。



南町の通りの様子。



仮設足場で補強される店舗併用住宅。



水のひかない地下駐車場。



港周辺の様子。



店舗併用住宅



店舗併用住宅 岩壁に流された事務所建物。



フェリー発着所建物。ピロティー状になっているため、津波が下を走った模様。



大島へ向かう船を待つ人々。



沿道。



沈下した道路を臨時補修している様子。



港の船舶。火災と転覆の事例。



岩壁に乗り上げた船舶の事例。



市役所付近にできた屋台。



魚町の八百屋さん。



パキスタンから来たイスラーム系援助団体。カレーを被災者に提供。

東北地方太平洋沖地震緊急被害状況報告・気仙沼および周辺小漁港集落

③ 魚市場・南気仙沼駅エリア

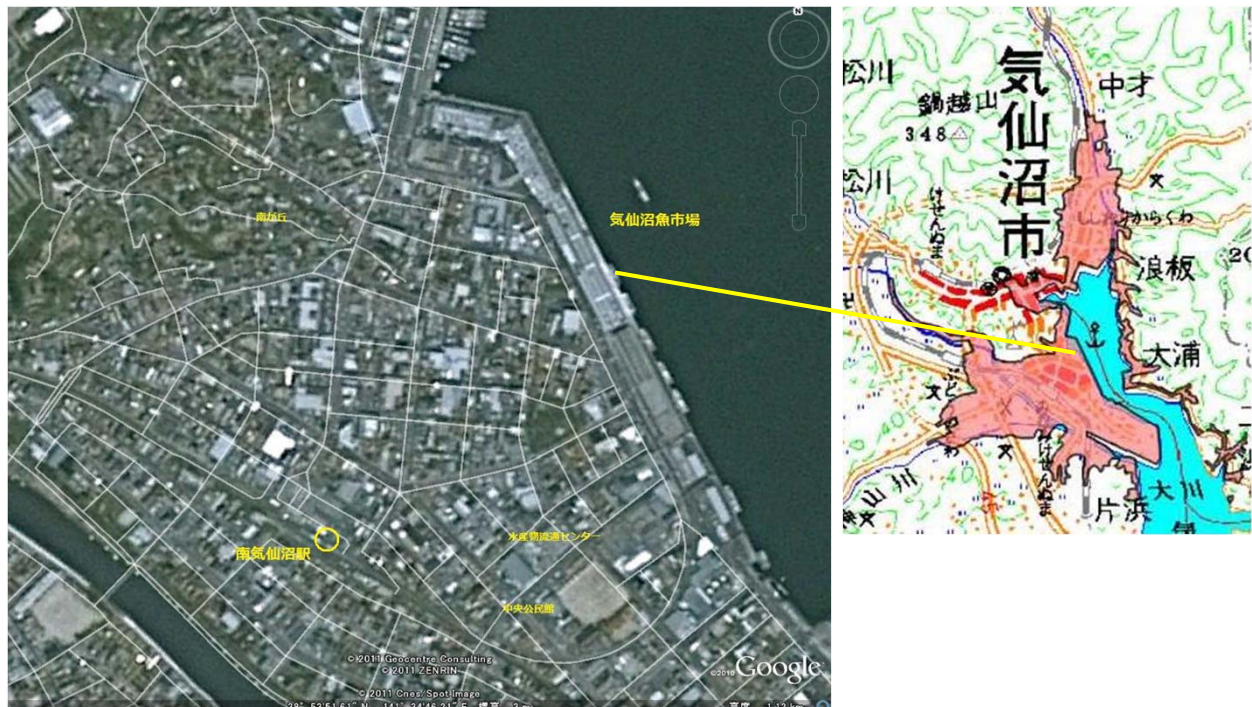
魚市場は、特定第三種漁港として指定されるため、規模が大きい。
石巻とは違い、上屋の被害は甚大ではなく、早期に復旧可能な印象を受けた。

魚市場周辺には一部、水産加工所があるが、大きくは気仙沼湾の入り口の埋め立て地に集積しているものと、北部の鹿折唐桑エリアの浜町付近に集積しており、石巻のように一体的ではないが、それぞれ全体的に被害を受けており、状況としては変わらない。

現在の被災状況から、これまで通りの漁業流通システムでは、漁業産業の復興には時間がかかることは明白である。復興できるところから復興し、産業を立ち上げることが急務である。それに必要な支援や障壁となる規制を明確化し、対応することが復興のきっかけとなる。

魚市場の背後にある南気仙沼駅周辺は、ほとんどが木造住宅地である。港周辺には大型店舗やボーリング場などの施設も見られる。木造住宅のほとんどが津波の被害を受け壊滅状態である。また、地盤の沈下により津波の水が引かず、瓦礫撤去作業などに支障をきたしている。

気仙沼港外の公共運動場が瓦礫集積所になっている。とくに選別はされていない。





到来時刻 流されたフォークリフト。

魚市場内部の状況。特に瓦礫なし。



護岸部分のスラブが浮き上がった模様。

魚市場外部の道路緊急補修状況。

緊急補修にも2段階の段差がある。



魚市場周辺の漁業関係小店舗。

漁業関連工場（鉄工所、水産加工所など）

小工場の破損状況。



リアスシャークミュージアム

南が丘からみた南気仙沼駅付近の様子。

南が丘からみた南気仙沼駅付近の様子。



仲町付近の様子。

同左。ほとんどが基礎から移動している。 同左。



浸水状態が続いている状況。



同左。



緊急補修された道路もある。



南気仙沼駅前のショッピングセンター。



ショッピングセンター前の道路状況。



移動した
鉄骨建物



移動した鉄骨建物の反対側から。



アパート



店舗併用住宅



内の脇エリアの被災状況。



同左。



川口町付近の水産加工工場の被災状況。



リアスアークに向かう途中にある瓦礫集積所



リアスアークミュージアム（立ち入り禁止）



外観上特に目立った被害なし。

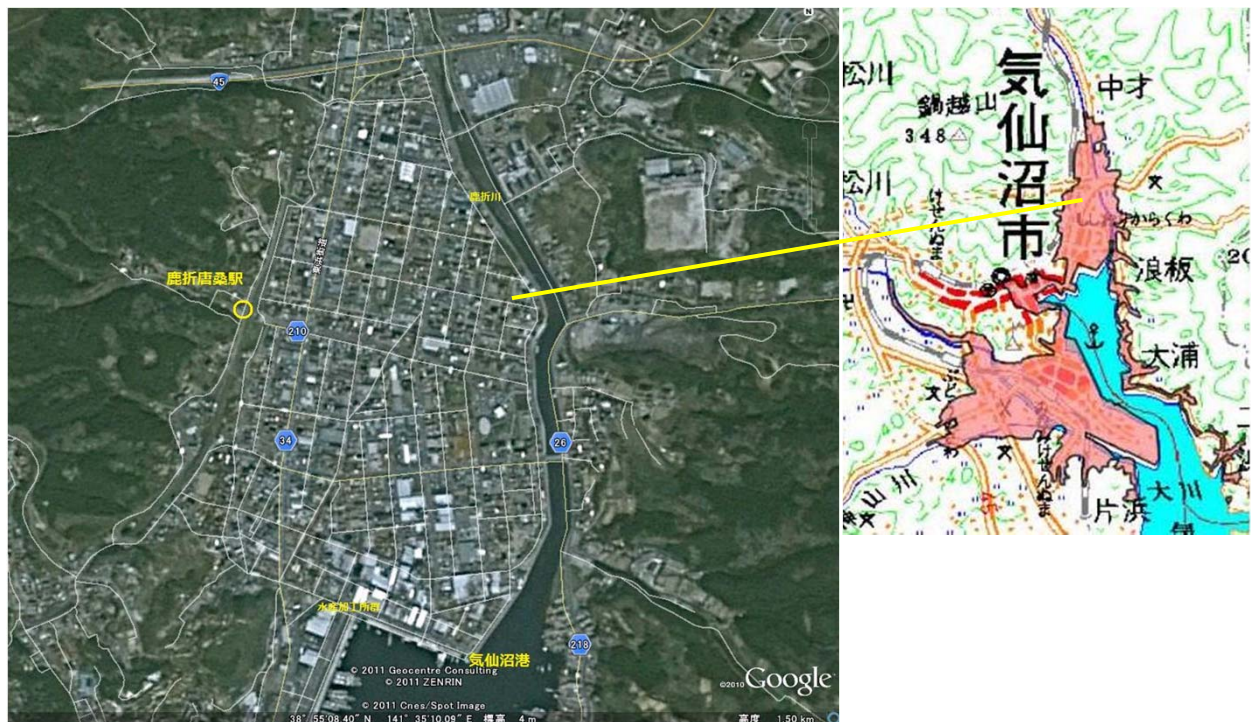
東北地方太平洋沖地震緊急被害状況報告・気仙沼および周辺小漁港集落

④ 鹿折唐桑駅エリア

気仙沼港の北部のエリアは、海側から浜町、本浜町、錦町、東みなと町、西みなと町がある。西側に唐桑川が走り、東側に気仙沼線が走る。平坦な部分の中間地点に鹿折唐桑駅がある。駅から東へ走る道路が錦町と各みなと町との境界であり、この道路を境に、北では津波被害に加え、広範な火災が発生した。

住居は全域にわたりほぼ壊滅的であり、高台に少しの住居が残っているのみである。気仙沼港の大型船舶の多くがこのエリアに流され、南側のエリアに多くが打ち上げられているが、奥まで流されている船舶もある。

湾のそばのエリアには水産加工所などの漁業関連施設が集積している。これらの建屋が比較的まばらに建っていたため、その隙間をぬって大型船舶が奥にながされたものと考えられる。





浜町・本浜町の水産加工所。



同左。この道路を大型船舶が流された。



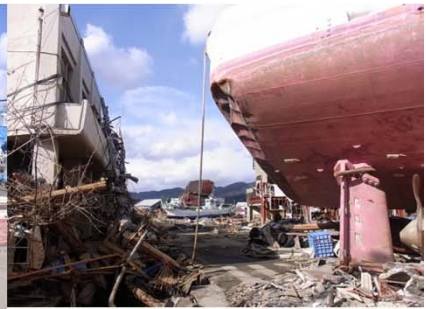
同左。



打ち上げられた大型船舶。



同左。



同左。



錦町の被害状況。小型船舶も打ち上げられている。地盤沈下も見られる。



鉄骨造の旅館建物。



平坦部の中間付近まで船舶が流されている。瓦礫撤去作業状況。



錦町付近。



広範な火災被害に見舞われたみなと町。



同左。



鹿折唐桑駅からの状況。

東北地方太平洋沖地震緊急被害状況報告・気仙沼および周辺小漁港集落

⑤ 大谷海岸エリア

気仙沼から志津川に至るまで、沿岸沿いを国道45号線および気仙沼線が走っている。途中、いくつかの浜とともに小漁港集落が点在している。規模は小さく、近海漁業や養殖業を行う小漁港である。

国道は箇所箇所地盤ごと津波に流され寸断されていたが、応急的に盛土され、交通が回復し始めているが、いまだに片側の道路や、路盤がこれまでの雨天で凹凸の激しい箇所も出てきている。また、小泉大橋は橋が落ちてしまっているため、普通の箇所もあり迂回が必要。

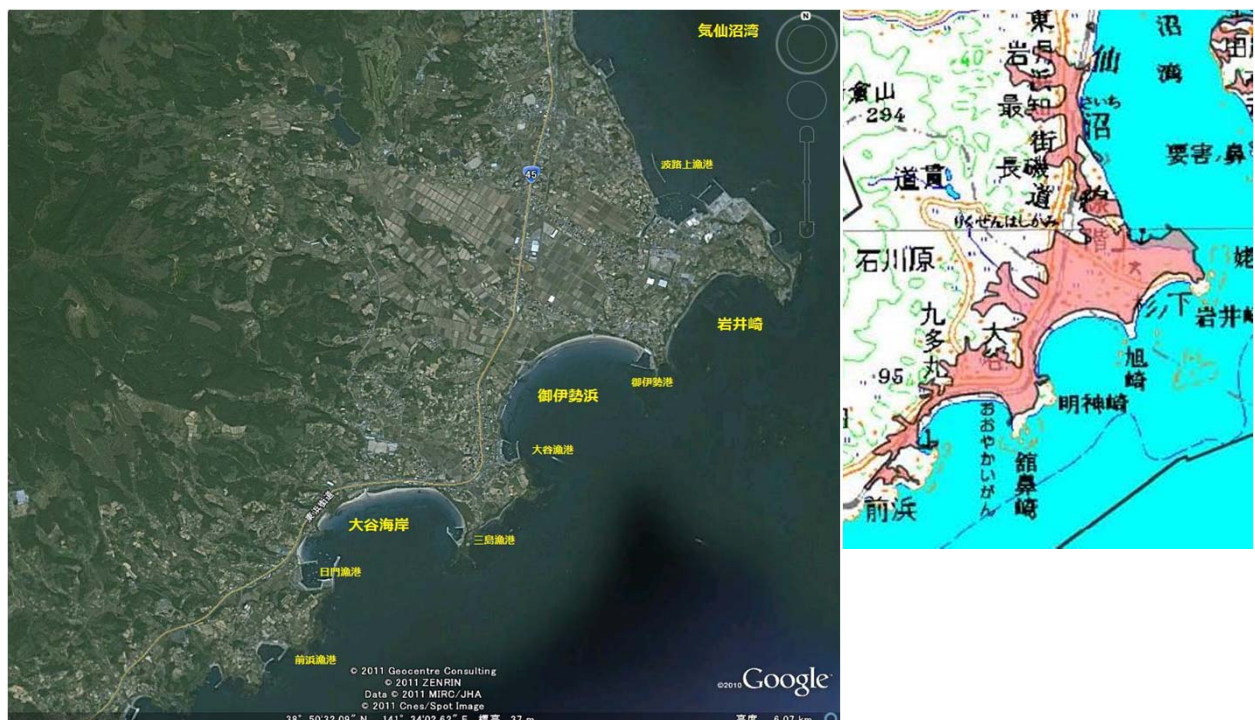
線路は、海岸に近い部分では巻き上げられており、完全に機能を失っている。

海岸に近い漁村はほとんどの住宅が流され壊滅状態である。高台に建てられた住宅も、被害にあっている。道路沿いに、津波想定位置の標識が設置されているが、概ね、想定されたレベルまで、目に見える被害が発生しているため、津波の高さそのものはさらに高かったものと考えられる。

大矢海岸付近では、沿岸沿いの駅舎にも被害があり、国道を超え、途中の住宅を飲み込み、さらに奥の高台の住宅までも被害を受けている。それらの住宅を自衛隊が人命の有無を確認していた。

小泉地区では、沿岸の橋が落ちている。気仙沼線の高架も桁ごとはずれている箇所が多くみられた。気仙沼線の高架上にも流された家などが確認された。また、志津川への迂回路では、仮設の配電線が敷かれていた。

志津川にちかい清水地区や歌津地区も住宅のほとんどが被害を受けている。当初、清水地区にある小学校の校庭に志津川地区の仮設住宅を建設する計画があったが、小学校自体が津波の被害にあっているため、住民の反対によりこの計画はなくなった。





小河川の架橋が落ちている状況。



河川付近全体の土地が流され道路は盛土で復旧。 片側まで復旧した道路。



相当距離の道路が流された。



鉄道の状況 高台の住宅被害状況。



高台の住宅被害状況。



同左。



大谷海岸付近の住宅が壊滅状態。



大谷海岸の東側、三島漁港。



大谷海岸駅舎 駅の線路。



駅の線路。コンテナが流されている。



波打つ線路。



大浜海岸。大潮の状況。



大谷海岸付近をパトロールする自衛隊。



大谷海岸の田畑エリア。



大谷海岸の高台住宅。



電車の高架に家乗っている状況。



路盤の落ちた橋。



高架上にも
瓦礫が乗る



高架が落ちている状況。



仮設の配電線。



同左。



歌津地区の高架落下状況。



同左。



同左。